

## JICAパートナーシッププログラム(マレーシア)について、ステークホルダー会議を開催しました (2018/08/08-14)

テーマ：人材育成、学術連携、社会実装、コミュニティ防災  
場所：マレーシアスランゴール州・マレーシア工科大学

今年の6月に始まったJICAパートナーシッププログラム「地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト」に関して、8月8-14日にプロジェクトの対象となるスランゴール州の洪水や地すべりによる被災地視察と、活動や役割に関するステークホルダー会議をマレーシア工科大学にて行いました。日本からは、泉貴子准教授（地域・都市再生研究部門）と呉修一准教授（富山県立大学、前災害科学国際研究所助教）が参加しました。このプロジェクトは、スランゴール州防災課、マレーシア工科大学、当研究所が協力し、今後4年間にわたり実施される予定です。

8月8-9日には、スランゴール州の地すべりと洪水の被災地6箇所をスランゴール州防災課の案内により視察しました。スランゴール州では、被害はそれほど甚大ではないものの地すべりや洪水が毎年のように発生しており、自然災害のみならず開発の観点からも深刻な課題となっています。今回視察した6箇所から、4箇所が対象地域として選択される予定です。

8月10-14日には、ドナーであるJICAを含む様々なステークホルダーとの会合や、2015年に新たに設立された国家災害管理庁（NaDMA）訪問を行いました。国家災害管理庁では、泉貴子准教授が当研究所の活動や、プロジェクトの概要を説明したところ、国家災害管理庁は大変関心を示され、今後のプロジェクト活動について定期的な報告を実施することとし、可能な支援・助言をいただけることになりました。

ステークホルダー会合では、主に対象地域に関する議論や一年目の主な成果となるリスク理解のための報告書作成について意見交換を行いました。リスク理解や分析において、最も重要となるデータ、ハザードマップの収集について、スランゴール州の防災課が各政府機関に交渉し、できる限りデータやマップを集め、それらをマレーシア工科大学と日本側の専門家が共同で分析を行い、それらの情報をできるだけ住民が理解しやすいようなツールに落とし込む作業を行う予定です。その結果、「仙台防災枠組」により推進されている住民の「科学技術に基づくリスク理解」を実現し、適切な防災対策を立案・実施することが可能となると考えています。



洪水の被害状況視察



地すべり被害状況視察

文責：泉貴子（地域・都市再生研究部門）  
（次頁へつづく）



JICA を含むプロジェクトチーム会議



スランゴール州、マレーシア工科大学との会議



国家災害管理庁 (NaDMA) への  
プロジェクト報告会



NaDMA とのグループ写真